

令和5年度学校評価計画書

R5 R4

項目	具体的取組	主担当	現 状	評価の指標	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	調査対象者 調査期間	達成度	判定	達成度	判定	
									前期		後期		
1 確かな学力の育成 ★	① 基礎学力の育成	学力向上部 山本	○昨年度の教師アンケート「あつぷUPタイムでは、児童の基礎学力の向上に結びつくような指導をしているか。」では、後期100%であり、教師の意識は高いと言える。 △基礎基本の定着に努めた結果、昨年度の学期末テストの達成度は、後期86%であった。一定の成果は見られるものの、個人差や学年差が大きく、定着度が十分とは言えない。	努力	T①:帯タイムや補充学習、合格テストを通して、基礎学力を身につけさせるための指導を個に応じて行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全教員 7・12月			100%	A	
				成果	点数:学期末テスト(国語は裏のみ・算数は裏表)の各学級平均点が全国平均を上回った割合	4:全国平均+3点以上 3:全国平均以上+3点未満 2:全国平均未満-3点未満 1:全国平均-3点以上	○4+3が (国・算のテスト結果) A:24学級 B:19~23学級 C:16~18学級 D:15学級以下	学期末テスト			19学級	B	
	② 授業力の向上	校内研究「学び合い後半の充実」による授業力の充実 ・授業構想シートによる確実なねらいの達成。	学力向上部 北川	○児童と職員「聞く・話す・反応する」力の意識は向上している。 △学年間差がある。 ○授業構想シートなどを用いて、日頃から重点を意識して取り組むようにしている。 △研究の重点について取り組みが徹底できていない。	成果	S⑧:授業で、聞き方名人・話し方名人・反応名人ができてきている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%~90% C:60%~80% D:60%未満	全児童 7・12月			89%	B
					努力	T②:学級の児童は聞き方名人・話し方名人・反応名人が身につけている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:13学級 B:11~12学級 C:9~10学級 D:8学級以下	全教員 7・12月			92%	B
					満足度	S⑨:授業は、わかりやすい。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%~90% C:60%~80% D:60%未満	全児童 7・12月			94%	A
					努力	T③:学校研究の重点「授業後半の充実」について、日頃から意識して授業に取り組んでいる。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%~90%未満 C:60%~80%未満 D:60%未満	全教員 7・12月			94%	A
	③ 思考力の育成	・調査問題を活用した検証問題の実施	学力向上部 湯上	○問題に線や丸を書いて、問題で何を聞かれているか明らかにしながら解こうとしている。 △条件を正確に捉えたり、用語やキーワードを使って最後まで書き切ることが苦手。	努力	T④:児童に用語やキーワードを使って書ききらせる指導をしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	A:4が80%以上 B:4+3が80%以上 C:60%~80%未満 D:60%未満	全教員 7・12月			100%	A
					成果	点数:各学級における検証問題(国語・算数)を条件に沿って解答している児童の割合。	○全ての条件を満たして正答している児童が A:80%以上 B:70%~80%未満 C:60%~70%未満 D:60%未満	全児童 7・12月			81%	A	
	2 家庭と連携したよりよい健康習慣づくり ★	④ 基本的健康習慣を定着させる取組	保健安全部 燈明	△SNSの利用時間の長い児童は、就寝時間も起床時間も遅く、不登校の一因にもなっている。 昨年度は保健だよりや健康チェックカードでの取り組みや、すくすく集会での啓発も行ったが、基本的な生活習慣の定着には二極化が見られる。	成果	S⑩:自分で決めた就寝・起床時間を守っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月			90%	A
					努力	P⑦:お子さんが、自分で決めた就寝・約束の就寝時間を守るように努めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月			86%	B

3 自分で考え 進んでよりよく行動する力の育成 ☆	⑤ 自己有用感の育成	・良い姿を見せた児童がいた際は、その場ですぐに認めていく習慣を、教師・児童共に習慣にしていける。	特活部 宮前	昨年度後期で、92%の児童が自分にはよいところがあると答えていると答えていた。	満足度	S⑪:クラスや学校にとって良いと思うことを、自ら進んで行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月	92%	A	
		・終礼等の情報交換タイムでは、他の児童にとって手本となる児童や学校のために頑張っている児童の姿を共有する。			努力	T⑤:行事などの活動では、個々に目標をもたせ、活動後には振り返りの際に、学校や学級のために頑張っている児童を価値づけ広めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100%以上 B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	100%	A	
	⑥ 進んであいさつする態度の育成	・生活目標による重点取組月間の設定 ・グッドマナーキャンペーン時の自己評価シート ・児童会と連携したあいさつ運動やキャンペーンの実施	生徒指導部 鶴田	昨年度後期、児童は56%が進んであいさつできていると回答している。 昨年度後期、96%保護者は時と場に応じたあいさつができていると回答している。	成果	S⑫:いつでも、どこでも、だれにでも すすんであいさつをしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4が A:80%以上 B:70%以上80%未満 C:55%以上70%未満 D:55%未満	全児童 7・12月	56%	C	
					努力	P②:子どもに、時と場に応じたあいさつを指導している。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月	96%	A	
	⑦ いじめ防止・不登校対策 ☆	・いじめ防止基本方針と具体的な取組を共通理解する ・児童会を活躍させるなど、児童主体でいじめ・不登校防止活動に取り組む ・どんな言動がいじめにあたるのかを児童に指導する。 ・いじめや不登校に関する学校の様子や取組をHPや生徒指導便りや積極的に伝え、家庭と連携する ・毎週1回ずつ、児童の情報の共有および個人カードの記録を終礼前に行う。 ・i-checkアンケートやいじめアンケート、ハートチェックなどの各種アンケートの情報をもとに面談を行い、日々の取組に活かす。 ・個別の対応が必要な児童については、適宜、学校支援委員会やいじめ対策チームを設置し、組織的に対応にあたる。	生徒指導部 鶴田	・昨年度後期、97%の子がいじめはどんな理由があってもいじめを感じており、一昨年度より横ばいである。 ・昨年度後期で、91%の保護者が学校はいじめに関する取組を伝えていると感じている ・昨年度後期、100%の教員が迅速な対応、個人カードの記入を行っている	成果	S⑦:いじめはどんな理由があってもいじめはないと思う。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4が A:100% B:95%以上100%未満 C:90%以上95%未満 D:90%未満	全児童 7・12月 (市7)	97%	B	
					成果	P⑨:学校は、いじめの未然防止や早期発見のための取組を伝えている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全保護者 7・12月 (市7)	91%	A	
					努力	T⑨:学校は、組織的にいじめ・不登校の未然防止と適切な対応をしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	新		
					努力	T⑥:配慮が必要な児童の様子について、情報を記録・共有し、活用を図っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	100%	A	
	4 学習場面に応じた1人1台端末の効果的活用 ☆	⑧ 基礎技能の習得	・教師が授業中にタブレット端末を利用した授業を設定する。 ・児童にミライシード(オクリンク等)・インターネット検索・動画や動画・写真撮影等を積極的に使用させ、習熟を図る。	ギガ推進部 土田	・児童はタブレット端末の使用に意欲的である。 ・タブレット端末を授業の中で使用するのが難しい学年がある。(特に低学年) ・児童のタブレット操作には差があり、特にタイピングスピードには大きな差がある。	成果	S⑬:ミライシード(オクリンク等)・写真・動画撮影・インターネット検索・クラスルームの参加・スライド・スプレッドシート等を使うことができる。	4:1人で使える 3:友達とグループで使える 2:先生と1対1でないと使えない 1:使い方がまったくわからない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月	98%	A
						努力	T⑦:授業中に、児童にオクリンク・写真・動画撮影・スライド・Googleフォーム等のアプリを使わせて授業していますか。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	授業担当 教員 7・12月	100%	A
⑨ 授業の達成率を高めるための効果的・効率的活用		・児童がタブレット端末を活用している授業の紹介を1学期に1度行う。 ・タブレットの基本的な操作方法や、校内の実践についてお便りを出し、確かめていく。 ・GIGA推進校のタブレット端末の有効的な活用事例を紹介し、校内のタブレット端末の有効活用について全職員で考察する。	ギガ推進部 土田	・R4年度の調査では100%の教師がタブレット端末を活用した学習を行っている。 ・タブレット端末の有効活用についての検証は今後も続けていかなければならない。 ・タブレット端末を日常的に使用するクラスとそうでないクラスに差がある。	努力	T:学年会の構想シートの実践を考える際、タブレット端末を活用した授業ができる場面について話し合っている。 T:1学期に1回、タブレット端末の活用についてスライドにまとめたことを基に実践発表を行っている。 T⑧:児童がタブレット端末を有効的に活用した授業を行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	授業担当 教員 7・12月	100%	A	
5 職員の働き方改革の推進	⑩ 働き方の改革	・学校CN・SSSの活用ができており、教職員の仕事が軽減されている。 ・担当による仕事量の差がある。 ・提出物や提案文書作りが多く、教材研究の時間の確保に努めている。 ・学校CNの活用 ・sssの活用	教頭 尾田	・学校CN・SSSの活用ができており、教職員の仕事が軽減されている。 ・担当による仕事量の差がある。 ・提出物や提案文書作りが多く、教材研究の時間の確保に努めている。 ・学校CNの活用 ・sssの活用	努力	T⑪:子どもと向き合う時間や教材研究する時間を確保するように働き方の改革に努めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全教員 7・12月	新		